

2016年12月19日

第19回 懇話会の報告

- ◆ 開催日時 : 2016年11月29日(火) 18時30分~20時30分
- ◆ 場所 : 青山学院大学青山キャンパス 総研ビル8階 11会議室
- ◆ 講演者 : 伊藤重隆氏(情報システム学会常務理事・会長)
- ◆ 出席者 : 7名
- ◆ テーマ : 「情報システムプロデューサーとは何か？」
- ◆ 内容 :

I. 懇話会の運営

今年度から「懇話会」と「私の主張の会」の担当が研究普及委員会となり、新しい開催趣旨による「懇話会」を中心に展開することとなった。具体的には、産業界と大学とが協働して人間中心の情報システムを探求し、次の世代に継承していくことを見据えて、新しい「懇話会」では、「オープン」と「若返り」をキーワードに進めていく。

また、今年度は「情報システムプロデューサー」を共通テーマに設定し、各回で関連する内容を取り上げる方式を進める。第19回懇話会では、「情報システムプロデューサー」とは何か？」をテーマにディスカッションした。

II. 講演の概要

1. 問題提起

- ・スルガ銀行対日本IBM事件
 - ・日本IBMが41億7千万円支払い
 - ・H25.9.26 東京高裁
- ・特許庁運営基盤システム開発中断・延期
 - ・特許庁にアクセントゥアと東芝ソリューションから返金された
 - ・大臣も中断を発表
- ・日本年金機構の年金記録喪失
- ・日本の国際競争力
 - ・GDPの推移(日本1990年代1位から2015年26位)
 - ・2013年 WEF-ICT ランキング(日本2008-2009年17位から2013

年 21 位)

- ・デンマーク，スウェーデン，シンガポールなどが 1 位，2 位
- ・IMD ランキング(日本 2009 年 17 位から 2013 年 24 位)
- ・アメリカとスイスが 1，2 位

2. 企業・官庁の情報システム構築

・契約方法

- ・一括契約請負と多段階契約の利点と欠点について

・一括契約は途中で切り替えられる可能性は低い，過小見積による損失の危険がある

- ・特許庁の例は多段階契約

・情報システム部門の課題

・情報システム人材配置の国際比較（ユーザ企業における ICT 人材の割合：米国 71.5%，日本 24.8%）

・2016 年 7 月 7 日 公表 中間答申 ICT 人材の現状

- ・最大 200 万人規模の ICT 人材の創出
- ・最大 60 万人規模の産業間人材移動
- ・ICT 人材の 51%をユーザ企業に
- ・各企業に ISP を

・ISP の役割

- ・ISP は事業部門に属して，事業を情報システムとして捉える

・事業部門の中で，情報システムを扱うのが米国では普通だが，日本では情報システム部門と事業部門が切り離されていることが多い

- ・大学による人材育成の必要性

まとめ

- ・情報システム活用・利用の重要さが焦点となっていない問題
- ・時限性でシステム開発をしないとイケないため，従来型では間に合わない

ない

討論：

- ・ 特許庁運営基盤システム開発中断・延期の原因など
- ・ 日本において事業部門と情報システム部門が切り離されている歴史的な経緯など
 - ・ 経営者によるコスト削減
 - ・ 情報システム部門の子会社化
 - ・ 情報システム活用・利用の重要さが焦点となっていない
- ・ 契約方法のテンプレートなどがあると良いのでは？
- ・ 自社で情報システム開発ができていない問題
 - ・ 要件定義や設計などは、米国の企業は自社で行うことが多いが、日本では開発業者に丸投げすることが多い
 - ・ 欧州なども米国型で、ユーザ企業に ICT 人材が多くいる
 - ・ 日本でもユニクロなど、最近 ICT 人材を増やしている企業もある
 - ・ 自社内に多く ICT 人材がいても活用できていないケースも多い
- ・ 大学における情報システム教育について
 - ・ どの学部で情報システム教育を行うべきか
 - ・ 理系は大学院まで進学して、IT ベンダーに就職するのが日本では多い
- ・ 日本では文系学生がユーザ企業に就職するケースが多いため、文系学生を対象に情報システム教育をするのが効果が高いのではないか
- ・ 文化的な問題
 - ・ 昔ハードウェアにソフトウェアが無料でついてきた時代があった影響など
 - ・ ゼネコンをまねしてしまった影響など
- ・ ISP を普及するためにはどうすべきか
 - ・ プロジェクトマネジャーにおける PMBOK や PMI による資格のように ISP も体系化や資格を用意すべき
 - ・ 情報システム学会としては、教育講座を開催したり、官と連携して体系化した内容をカリキュラムに組み込むなどが必要
- ・ 人間中心の情報システム
 - ・ MS CEO が人間中心の AI について言及

III. 所感と御礼

参加者が7名とやや寂しい感じは否めませんでした。新しい若手の参加者も議論に加わっていただき、「オープン」と「若返り」という新しい懇話会の趣旨に沿った会になったのではないかと思います。本学会の企画の一つである「社会への提言」のテーマとして検討されてきた伊藤重隆氏からの、情報システムプロデューサーの必要性、人材像についてのご説明により活発でより深い議論を誘発していただきました。ここに、改めて感謝を申し上げます。

次回も「情報システムプロデューサー」を共通テーマに、個別テーマについては、開催日程と併せて開催案内の中でお伝えします。非会員も参加無料です。ご興味のある方をお誘いの上、奮ってご参加いただければ幸いです。

以上

(文責 宮川裕之)